

令和7年度 学校評価アンケート結果

後期の学校評価の結果は前期の結果に比べて、全体的に肯定的な回答(「よくできている/そう思う」及び「大体できている/大体思う」)の割合が、維持または、向上している傾向にありました。

1 子供の自己評価における変化

(1) 「なりたい自分(目標)」の意識【質問1】

子供自己評価	前期	後期	結果
よくできている	36%	54%	向上(+18%)

※本年度より「なりたい自分(目標)」をもつことの大切さを子供たちに伝えてきました。前期と後期の比較からその意識が徐々に高まってきたことが分かりました。来年度も継続して「なりたい自分(目標)」をもつことを大切にしたい教育活動を推進していきます。

(2) 「さあ、やってみよう(チャレンジ)」の意識【質問5】

子供自己評価	前期	後期	結果
よくできている	42%	48%	若干向上(+6%)



※子供の評価は半数を下回り、教職員の評価は低数値の結果となりました。来年度は、子供が「やってみよう」と思い、自ら進んでチャレンジしようとする機会(子供にとって魅力ある楽しい教育活動)をより一層推進していきます。

教職員評価	前期	後期	結果
よくできている	9%	20%	低数値であるが向上(+11%)

(3) 学習への意欲と主体性【質問7、10】

ア 自分から課題を見つけて進んで取り組む【質問7】

子供自己評価	前期	後期	結果
よくできている	32%	42%	向上(+10%)

イ 学んだことを活かして新しい問題を解決しようとする【質問10】

子供自己評価	前期	後期	結果
よくできている	33%	51%	向上(+18%)

※「イ」の項目が、「ア」の項目を上回っている結果から、新しい課題との出会わせ方を工夫していく必要があることが分かりました。子供が今まで学んできたことや生活経験と、新たな問題を結びつけながら、自ら課題を見つけていくことができる力を育てていきます。

(4) 人間関係と生活態度【質問3、12、13】

ア 友達と教え合ったり協力したりする【質問3】

子供自己評価	前期	後期	結果
よくできている	71%	70%	微減・維持(-1%)

※友達と教え合ったり協力したりすることができる子供が多い傾向にあることが分かりました。授業や特別活動(係活動や委員会活動、学校行事、各種イベント等)の中で、「教え合い」や「協力」の機会を意図的・計画的に設定し、更なる活性化を図ります。

イ 自分から進んで挨拶する【質問13】

子供自己評価	前期	後期	結果
よくできている	53%	54%	微増・維持(+1%)

※自分から進んで挨拶することがよくできていると感じている児童が「2人に1人」の割合でした。挨拶は、人と人をつなぐ大切なコミュニケーションスキルの一つです。来年度は、70%以上の子供が「自ら進んで挨拶することができる」と答えられるよう手立てを講じていきます。

(5) 聴く態度【質問6】

ア 人の話をしっかりと聴いている【質問6】

子供自己評価	前期	後期	結果
よくできている	45%	44%	微減・維持(-1%)



※子供の評価は半数を下回り、教職員の評価は低数値の結果となりました。人の話を聴くことのメリット(信頼関係の構築・知識の獲得等)を子供たちと共有するとともに、話し手・聴き手(子供・教職員)のスキルアップを図っていきます。

教職員評価	前期	後期	結果
よくできている	6%	6%	低数値維持(±0%)

2 学校・教師への評価(質問18~20)

学校の対応に関する子供の評価は、比較的高い水準で安定していました。また、教職員の評価についても比較的高い数値結果となりました。

(1) 気軽に相談【質問18】

子供自己評価	前期	後期	結果
よくできている	54%	64%	若干向上(+3%) よくできている(+10%)
大体できている	35%	28%	
合計	89%	92%	

(2) 一人一人を大切に【質問19】

子供自己評価	前期	後期	結果
よくできている	64%	76%	維持(±0%) よくできている(+12%)
大体できている	31%	19%	
合計	95%	95%	

(3) いじめの対応【質問20】

子供自己評価	前期	後期	結果
よくできている	59%	71%	若干向上(+1%) よくできている(+12%)
大体できている	34%	22%	
合計	93%	94%	

3 子供と教職員の認識に差がある項目(後期の結果より)

(1) 自分の考えを言葉で分かりやすく伝える: 情報発信能力【質問9】

「よくできている」と回答した割合

子供自己評価	教職員評価	認識の差
43%	6%	37%

(2) ルールやマナーを守る：ルールの遵守【質問14】

「よくできている」と回答した割合

子供自己評価	教職員評価	認識の差
50%	5%	45%

※両項目において、子供の評価は半数もしくは半数を下回り、教職員の評価は低数値の結果となりました。全体の底上げが必要であると考えます。まずは、子供たちと教職員の意識の違いを埋めるべく、何をもって「よくできた」とするのかの基準を揃えるために、本校が目指す姿を改めて子供と教職員とが共通理解を図ります。そして、同様の姿を目指しながら、日々の教育活動に取り組むことができますようにします。

4 保護者の評価

(1) 子供への肯定的・温かな視点【質問3、4、11】

ア 友達と教え合ったり協力したりしている【質問3】

そう思う	大体思う	合計	結果
41%	52%	93%	肯定的な捉え

イ 楽しい学校生活を送っている【質問4】

そう思う	大体思う	合計	結果
49%	44%	93%	肯定的な捉え

ウ 自分を大切にしている【質問11】

そう思う	大体思う	合計	結果
41%	52%	93%	自己肯定感の育ちを実感

※すべての項目において、肯定的な捉えをしてくださっている保護者が多い傾向にあることが分かりました。ただし、学校はすべての子供にとって安心して楽しく学ぶ場である必要があります。引き続き、初生小学校に通うすべての子供にとって「笑顔にあふれ 安心して学び 明日また来なくなる学校」となるよう、努めていきます。

(2) 子供・保護者との認識に差がある項目（課題が見える項目より）

ア 目標をもって取り組む：目標意識【質問1】

子供：「よくできている」、保護者：「そう思う」と回答した割合

子供自己評価	保護者評価	認識の差
54%	12%	42%

イ 自分から課題を見つけて進んで取り組む：自主的な学習【質問7】

子供：「よくできている」、保護者：「そう思う」と回答した割合

子供自己評価	保護者評価	認識の差
42%	12%	30%

ウ 自分から進んで挨拶している：挨拶【質問13】

子供：「よくできている」、保護者：「そう思う」と回答した割合

子供自己評価	保護者評価	認識の差
54%	33%	21%

※両項目において、子供の評価は半数もしくは半数を下回り、保護者の評価は低数値の結果となり、全体の底上げが必要であると考えます。また、子供が目標意識をもちながら家庭学習に取り組んだり、家庭や地域においても進んで挨拶したりする姿をより一層求めている傾向にあることが分かりました。子供が自律して取り組むことができる家庭学習あり方や家庭・地域と連携し、挨拶をすることの価値や大切さについて、子供たちと共に考えていきます。

(3) 学校の対応への信頼

ア 学校は子供を大切にしている：一人一人の尊重【質問19】

そう思う	大体思う	合計	結果
33%	59%	92%	肯定的な傾向

イ すぐに、そして丁寧に対応してくれる：いじめへの対応【質問20】

そう思う	大体思う	合計	結果
28%	64%	92%	肯定的な傾向

※両項目において、保護者の評価は肯定的な傾向にあることが分かりました。ただし、「大体そう思う」の割合が多い傾向に学校としては危機意識を感じています。心理的安全性の向上・プロアクティブ(発達支援的生徒指導・課題未然防止教育)を重視し、傾聴・受容・共感を大切にしながら、子供が安心して自分の思いや考えを発言し行動できる環境を提供するとともに、子供一人一人の個性の発見と良さや可能性の伸長を支えながら、よりよい人間関係づくり(社会的資質・能力の育成)の構築を目指します。

5 学校評価まとめ

(1) 成果

- 前期から後期にかけて、子供自ら目標をもちながら課題に取り組む姿勢が向上している結果となりました。ただし、「主体性」や「さあ、やってみよう」については、子供と教職員の結果に大きな差異があることから、まずは子供と教職員との間で定義の共有化を図ります。そして、同様の姿を目指しながら、日々の教育活動に取り組んでいきます。
- 友人との協力や挨拶等、対人関係及び学校への信頼感において肯定的回答が多くありました。また、自己肯定感が高い傾向にあることから、その意識を学習・活動意欲の更なる向上へつなげていきます。

(2) 今後の課題

- 特に、自分の考えを伝える力、聴く態度、公衆道徳(マナー)については、教育活動全体を通してよりしっかりと定着を目指していきます。
- 子供たちの多様な表れに対し、子供一人一人に寄り添いながら「主体性・協働性」「自律・共生の態度」を育むことができるよう、家庭・地域・諸機関との協力体制の強化を図るとともに、学級経営・子供との関わり方等に関する研修を深めていきます。